

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100231		
法人名	医療法人財団 健友会		
事業所名	グループホーム星取		
所在地	長崎県長崎市星取2丁目2-43		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成23年1月13日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成22年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成19年5月1日に、地域の強い要望から「星が取れるくらい夜空が美しい」と例えられるこの町に開設しました。入居者様9名・職員8名の所帯です。住宅地の中にあつて、地域の皆様には、庭の花を持って来て下さったり、自治会主催の夏まつりでは、特等席を準備して下さり、ご家族も一緒に子供たちとの交流・地域の方々との語らいを楽しまれています。日常生活では、入居者様のご希望に添い、ご自分のペースでゆったりと安心して過ごして頂けるよう支援しています。当ホームでは、ご家族・地域・ボランティアの皆様のご協力のもと、毎月外へ出かけています。中でも、あぐりの丘にある畑では、芋や人参・冬瓜などが採れ、毎年、畑作りから水やり・収穫と入居者様も大忙しです。入居者様全員が笑顔で過ごすことができるようスタッフ一同 寄り添っていきたくと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明るいホームのリビングで、トイードルのモンちゃんが出迎えてくださった。その横で、微笑ましくモンちゃんの様子を見守るご利用者の姿は印象的であり、職員の方々の温かい笑顔と大きな笑い声と合わさって、何とも心地よい時間が流れていた。開設当初からご利用者、職員共に入れ替わりが殆どなく、“私たちは、利用者様に寄り添い「安全」「のんびり」「活き生き」その方らしい生き方を支援します”という理念に基づき、ご利用者に寄り添い、新たな気づきを求めながら、日々の支援が続けられている。毎月行われる生け花教室は、ご利用者の楽しみの一つとなっており、リビングや居室に色とりどりの作品が展示されていた。外出を好まれる方も多く、職員も外出好きということもあって、日常の散歩以外にも、ご家族やボランティアの方にも声をかけ、水族館やお花見、あぐりの丘などに毎月外出している。馴染みのスーパーに出かけたり、以前住んでおられた近道をドライブするなどの支援も行われており、車いす利用の方が増えている状況ではあるが、これからも楽しい外出を続けていきたいと考えられ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	6月には「ケアホームバザー」を行い「どなたでも気軽にお越し下さい。相談会も行います。」と自治会会合参加・回覧板、職員・管理者と一緒に地域まわりアピールを行いました。地域と繋がる大切さをスタッフ全員が確認できました。入居者様には、地域行事への参加・通院・買い物・散歩支援。畑・花栽培で自然と触れあう場の提供など入居者様・ご家族様のご意見を聞きながら企画・実践しています。	「利用者様が一番」の視点に立ち、事業所の理念の持つ意味を日々考え、その中で新たな気付きを全員で共有している。育成体制の充実と共に研修受講の機会も多く、職員の知識、洞察力も更に深くなってきている。日々のケアの中では、以前行っていたスーパーへの外出や、ドライブを通して会話をする機会も増やしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・挨拶をきちんと、明るくするようにしています。 ・地域の行事準備の際は参加しお手伝い。 ・日常的に遊びに来て頂く。 ・おたよりを毎月配布。 ・学生の実習受け入れ・外出時には近所の方にボランティアで参加していただく事もある。 ・相談活動 ・行事の際は、地域の方も招待しています。	22年6月に「ケアホームバザー」を行い「どなたでも気軽にお越し下さい。相談会も行います。」と回覧板でお便りを回した。また、職員・管理者・地域の方と一緒に地域を回り、ご相談など受け、地域行事のお手伝いも積極的に参加している。あぐりの丘の作物作りや感謝祭、消防訓練には、地域の方にも参加して頂いている。	今後も引き続き、近隣への散歩や日向ぼっこを行いながら、挨拶や会話を増やしていきたいと考えている。地域との交流に向けた、更なる取り組みに期待していきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体の医療法人では友の会があり、地域で学習会を開いたり、相談を受け市の「家族の会」や包括支援センター・他施設などを紹介したりしています。おたよりを地域に配布することで、「関心を持った」「楽しく見ている」というお声も頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様のご様子と行事・他 スライドで毎回紹介しています。運営推進会議での情報・ご意見などは、参加したスタッフからカンファレンスで報告され全体討議しています。	ご利用者、ご家族、民生委員、地域包括の方に参加頂き、有意義な会議となっている。防災について、参加者の方から「地域への働きかけ」のアドバイスを頂き、「災害時の協力員をつくる」働きかけを行った。8月の夜間火災訓練は火災ベルを鳴らし、地域からの応援部隊も作り、離れた所でも声や音が聞こえるかの検証も行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に、「ホーム便り」の送付・運営推進会議での情報交換・一人暮らしの方の情報、相談など 連携しています。	市の担当者に介護保険の改正内容のご指導を頂いたり、インフルエンザの県内罹患状況等、運営推進会議の中でアドバイスを頂いている。年1回、介護相談員の受け入れていると共に、「ホーム便り」を市役所へ送付して、ホームの状況を理解して頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしない」ホームの方針はスタッフ一人一人に定着しており、日常生活の中で、入居者様が笑って暮らして頂ける事を考えケアを行っています。(カンファレンス・個人面接時にも確認)	身体拘束は行っていない。転倒が頻回にみられたご利用者については原因を把握し、ご家族も含めて解決策(センサー使用についても)の検討が行われている。センサー使用の目的のあり方等についても話し合い、身体拘束にあたる「言葉」についても、職員間で常に配慮が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	●実務者研修・他折々の研修で学ぶ機会は多く、フィードバックしています。また、研修月を定めています。●アットハットの様式に図を追加しあざなどについて検証できるようにしました。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ全員が実践者研修・一般研修を行い、自立支援・成年後見制度について学ぶ機会を得ています。実践の中で意見交換しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	現在のところ、契約の変更はありません。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様・入居者様のご要望を言える信頼関係が重要と考えます。毎月、おたより・日常の様子をご家族様へお送りし、運営推進会議での資料には行事や診療・研修など網羅させ、来られないご家族様へもお送りして情報を提供しています。ご面会の際は話せる雰囲気を作るよう心掛けています。	介護計画立案時や面会時と合わせアンケートも実施し、ご利用者、ご家族から意見を頂いている。ご利用者が伝えて下さった「寂しい」というお言葉に、“なぜ寂しさを感じるのか”“楽しみを探そう”と、他のご利用者との会話作り、カフェ、買い物など、職員全員で取り組まれた。パースティブレゼント等についても、ご意見を頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	●笑顔箱・報連相ノートの活用は、多くはないですが継続し、日常やカンファレンスで上がってくる事柄を大切に、反映させています。 ●1月には、個人面接を行い意見交換をおこないました。	月1回ケアミーティングが行われ、活発な意見交換が行われている。日常中での気づきが沢山あり、折々に朝の申し送りやカンファレンス・報連相ノート等で情報交換や確認、変更などが行われている。報連相ノートには、職員が疑問に思ったことが記載されており、提案については管理者が前向きに受け入れ、改善が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については、国策で一部定給・賞与に反映されていますが、生活を維持する面において不足している事には変わりなくスタッフの頑張りに見合っていない切実な問題です。介護福祉士など取得すると昇給するシステムです。公休・年休は希望を最大限に受け入れています。残業はカンファレンス時間程度でサービス残業は殆どありません。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修を5名・リーダー研修を1名受講し、残る2名についても対外研修を年末までに完了させる予定です。面接は、育成面接の要素をもって臨んでいます。5月に介護手順チェックリストで各自が自分のレベルを確認しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎グループホーム連絡協議会において、事例検討会や懇親会に参加しています。また、理事として役割を担っています。法人内や老健懇などにも事例を持って参加しています。管理者は、看護師有志の懇談会を設け意見交換を不定期に行っています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	開設から今年5月で3年を迎えました。スタッフの入れ替えもなく、入居者様が変わることもなく、信頼関係は構築されていると考えます。度々、日常の中でお尋ねしたり、ご様子で察知したり努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	●開設から今年5月で3年を迎えました。スタッフの入れ替えもなく、ご家族様との信頼関係も構築されていると考えます。度々、日常の中でお尋ねしたり、ご様子で察知したり努めています。●6月には、ご家族アンケートを実施しました。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント・お話を伺う中で、支援・対応を確認し、必要時変更しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること・できないことをスタッフで確認し、生活を共にする・・という視点で支援しています。時にレベル低下がみられたり、ご本人様の支援要求が強い時には臨機応変でご本人様に寄り添い考えて支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の絆を深める意味でおたよりと日常のご様子を毎月送付しています。キーマン以外の家族の方へもご希望があれば送っています。写真を毎回載せ送る事でご面会の方もわかります。行事の折は、参加して頂いています。臨時診療の際は、ご協力をお願いし同伴して頂くこともあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月、おたよりを送ったり、行事へのお誘いをしています。	ご利用者との日々の会話の中から情報を把握したり、時には職員が話題を振って、馴染みの方や馴染みの場所を把握するように心がけている。馴染みのスーパーに出かけたり、以前住んでおられた近くをドライブするなどの支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、相性があつたり合わなかったり、トラブルになる事もあり、座席を替えたり間に入りトラブルを防いだりしています。何かの折には「ありがとうございます。」と感謝の意を表して、関わりがスムーズにいくよう配慮しています。		

自己	外部		自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の方はおられませんでした。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月、リクエスト食の日を作り、入居者様の食事の希望を聞いています。「寿司を食べたい」「カレーライス。カツののった」「肉団子」「やきそば」など、案外 肉をご希望のことが多く、食べやすく・柔らかくなど工夫しています。お寿司は誕生日や敬老会・リクエストの時、..気軽に浮かけたいと思っています。	センター方式を活用しながら、面会時や介護計画立案時、ご家族の意向を確認している。ご利用者との日常会話やテレビを見て「何が食べたいですか?」「行きたい所はありますか?」とお尋ねしている。意思を伝えにくい方がおられ、文字盤を作成し、意思疎通できるような取り組みも行われている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・馴染みの暮らし方・生活環境などの把握には努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前中は治療へ出かける方、サスペンスがお好きでテレビを見ている方、犬のモンのマッサージを行う方、抱いている方、それぞれの方の生活・心の動きがあり、把握して支援を行っています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアのあり方について、ご本人を交えてご家族と話しご意見を伺い介護計画を作成しています。ご家族やご本人様からのアイディアはあまりなく元気に、転倒などせずに過ごしてほしい..が多いです。	計画作成担当者が中心となり、ご利用者、ご家族、かかりつけ医等の意見、要望をもとに職員と話し合っ介護計画が作成されている。計画には、医療を含めて、細かな手順が記載されており、ご利用者にもわかるような表現で記載がされている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫は多いが、個別記録に介護計画を意識しての記載は少なく、介護計画を主軸としてケアに活かし情報を共有しながら実践していきたいと思ひます。この間、担当制を意識して改革に努めています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共に生活をしている..という視点から、ご家族に不幸があったり、臨時に受診しなければならない状況になったり、面会の方と折角だからとお食事を一緒に食べて頂いたりなど、その場に応じて臨機応変に対応する事は多く、スタッフは入居者様にとり何が今大事で、何を支援するかをそれぞれが柔軟に考え取り組んでいます。			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当ホームの周囲は住宅地で、商店・銀行・美容院・役所・学校など車を利用しなければ行けない環境にあります。車での販売を利用できないか考えましたが、時間帯が合わず無理でした。なかなか難しい状況は続いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族・入居者様のご希望は大切にしようと考えていますが、現在の所、かかりつけ医を皆様希望されています。他に心療内科・皮膚科・眼科は通院介助しています。歯科は往診して頂いています。	通院に際し、協力できるご家族には同伴を依頼している。受診結果はご家族へ口答で連絡している。かかりつけ医には、往診前に状況や必要な外用薬等をFAXで送り、スムーズに診察が進む様にしている。臨時の場合は先にFAXで状況を送り、指示を仰ぎ、診療所が休みの場合は同法人の病院で受診し、結果を診療所へ伝えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、連絡・連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同じ法人の診療所・病院であり、看護師が勤めていた経緯もあって情報交換・関係づくりは良好です。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期にあつて、医者の診断のもと、ご本人・ご家族と相談し医者も含め方針を決める。ということになると思います。	ご家族、ご本人のご希望があれば、終の棲家として受け入れる準備がされており、職員の不安を無くすための勉強会が行われている。癌末期のご利用者を看取った経験があり、ご利用者と一緒にお見送りされた。ご家族にアンケートを行い「最期はどうしますか？」とお尋ねしたが、「その時にならないとわからない」という方が大半だった。その都度希望を伺い、個別に対応する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練時、救急処置・AEDについて学習を定期的に行っています。年2回実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご近所から5名の方が災害時の協力員を承諾して下さいました。火災時はセコムを通じて協力依頼する体制がとれました。日中は、ご近所のパールドライの職員の方の応援を頂きます。	ご利用者や地域の方に参加頂き、消防署の方の指導を受けながら、昼夜を想定した避難訓練を年2回行っている。災害時の自動通報は、地域の方にもお知らせが行くシステムとなっている。災害に備え、飲料水や缶詰、レトル食品、ラジオ、懐中電灯や卓上コンロなどの備品も準備されている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけに努めています。	「入居者様には人生の先輩として敬意をはらい、言葉掛けや態度はやさしく丁寧にいきましょう。笑顔で接しましょう。」という指導のもと、職員は心がけて日々支援を行っている。人権尊重、接遇などの法人内研修も行われ、情報漏えいしないなどの徹底も図られている。ホーム便りについても、表現に気をつけて記載するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動をおこして頂く時には、常にお尋ねして、ご自分の意志を表出して頂くよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は、お一人お一人起きる時間も違い、その方に合わせて食事を提供しています。～せねばならない…という事はなく、入居者様の思いが第1ですが、外に出たり ゆっくりした時間を共有する事が不足しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居間には大きな鏡があり、朝の洗面時には、皆様 鏡を見て身なりや髪を整えておられます。散髪は2カ月に1回で入居者様の意向に添って行われています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	汁を注いだり、盛り付けをして下さる入居者様が限られており、「私ばかり…」と思われることもあって、無理強いする事なく出来る時はお願いしています。片付けをして下さる時は「ありがとうございます。」と感謝しています。	お弁当を作ってお出かけしたり、ご利用者の希望を取り入れたリエスト食や外食が行われている。咀嚼や嚥下に合わせてきざみやミキサー食が提供されており、摂取量の少ない方には、味を変えるなどの工夫が行われている。畑で採れた旬の野菜を使ったり料理や、お正月には漆塗りの容器を使うなどの配慮もされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューが決まった食材が届くシステムで、栄養バランスは栄養士チェックのもと、行われています。水分量の少ない方は、水分量をチェックし、1000CC以上を目標に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人お一人の力に応じた口腔ケアの支援をしています。2週間に1回は歯科往診があり、口腔点検・ケア・治療をして下さいます。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の力に応じトイレ排泄を支援しています。	ポータブルトイレを使用されているご利用者でも、日中はできるだけトイレを利用して頂いている。トイレの場所が分からない方には、居室からトイレまでの廊下に線を引いたり、落ち着きがない様子が見られたら、職員が手をつなぎさりげなくトイレに誘導している。トイレには暖簾をかけ、ドアを閉めるなど羞恥心へ配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給のチェックをしています。その方に 応じて便秘薬の調整を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	皆様入浴を楽しみにしておられます。入浴時間は、隔日 で日中が基本で必要時シャワー浴など行っています。ご 希望や入浴の変更から続けて入浴を行う事もあります。 ご希望が夕方や夜・というのはありませんが、マンパ ワー上無理でもあります。	曜日や時間は、ご利用者の希望に合わせた対応が行 われている。柚子湯や菖蒲湯など季節感を感じて頂 けるような工夫もされ、入浴後は保湿剤を使用したス キンケアも行われている。入浴を好まれない方には、話題 を変えてみたり、時には「温泉へ」とユーモアを交えた声 かけが行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中は起きて頂くようにしていま すが、それぞれの方の状況に合わせて休ん で頂いたり、好まれる方は意志を尊重し、自 由にして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	効能書きを常に確認できる所へ置き、臨時 薬や変更がある時は、伝達ノート・申し送りを きちんと行うようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カレンダー作りは、娘様へ渡すプレゼントの一つ、と毎月楽しみに作るM様。おやつや牛乳瓶の片付けは自分しかいない・と体調が悪くても行って下さるK様。米とぎや食材の支度・味見などそれぞれの方のお力をお借りしています。毎週土曜日は気分転換に外出ヘルパーさんと浜ブラされる方もおられます。男性スタッフが大好きなT様は、傍にいただけでもお幸せそうです。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度は行事として外出を入れ、ご家族・ボランティアの皆様のお力をお借りし行っています。日勤者を増やし、個別に楽しんで頂けるよう努力しています。「帰りたい」と言われる時は、付添いお供します。マンパワー不足で業務が先行している感があります。	新戸町公園やペンギン水族館、あぐりの丘など、ご家族やボランティアの方に声をかけ、月に一度は外出が行われている。ご家族の協力を得て、個別に外出を楽しんで頂いている方もおられる。この半年、ご利用者のレベル低下に伴い、外出に車椅子が必要になったご利用者が多くなり、行事以外での日常的な外出が、以前より少なくなっている。	ご利用者も職員も外出が大好きで、日常的な外出ができるように、今後も継続して検討していきたいと考えている。以前のよう に、お散歩が楽しめるよう、今後の取り組みに期待していきたい。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は3名です。ご家族がお渡しになる分・ご本人様が所持される分は、ご自分で管理して頂くようにしています。「お金」を持つ事、自分で支払う大切さは認識しており、出掛ける際は、個別にお金を準備し支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	春の花見のお知らせでは、ご家族にそれぞれの方からメッセージをおくったり、いつもお世話になっているヘルパーさんにお返しの年賀状を送ったりしました。電話がある時はおつなぎしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ・居間・居室では、不快な臭いがないよう、毎日スタッフがハイター消毒の掃除をし、特にトイレ・ポータブルトイレについては念入りに行っています。掃除時は換気に注意し、各居室の温度・湿度も気配りし洗面台には水を張ったり、風邪を引きやすい方は加湿器を使用したりしています。居室のドアには、とっておき写真とお名前の名札があり、ご自分の部屋を確認しておられます。居間・居室には花を飾っています。	廊下の壁には行事の時の写真が掲示されている。月1回ボランティアの方による生け花教室が開かれており、ご利用者の作品が居間や居室に飾られている。リビングでは、セラピー犬のモンちゃんに仕上げをされているご利用者の姿が見られた。食事時など人のざわめきや動きに過敏な方がおられ、食事途中で食器を片づけない等、音に対する配慮も行われている。	消防面で、「非常階段にスロープをつけた方が良い」と運営推進会議メンバーよりご意見を頂き、来年度改築が予定されている。(外部評価13も同様)
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のスペースは、アイドルの犬のモンとの語らいの場所です。時にソファで横になったり、居室に入りテレビを見たり、居間で洗濯物を畳んだり、思い思いに暮らして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、ご家族様へ「馴染みの物をお持ち下さい。」とお願いをしています。箸はご自分の物を使っておられます。	使い慣れた椅子・テレビ・ペット・仏壇・筆筒等を持ってきて頂いている。居室の入口には、ご利用者と担当職員が一緒に写った写真が貼られている。ご本人が作った作品や写真、季節の花などが飾られており居心地良く生活して頂いている。下肢痛の為、起立保持が出来なくなった方には、転倒防止のため、一時ペットを布団に変更された。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新聞を毎日読まれる方は、朝からエレベーターを使いポストから取って来られます。この時、他の郵便物も所定の位置へ置かれます。針仕事をされる方は糸を通してお渡しします。後から返しに来られます。ジャガイモや渋柿の皮は包丁で剥かれます。魚の下ごしらえもお願いしたりする事もあります。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域の自治会の活動は活発で、夏祭り・餅つきなど行われており、入居者様はそれぞれが自治会に入られ事業所でもお手伝いをしたり、入居者様が活動に参加できる支援をしています。22年度は、初めての試みとして“ケアホームバザー”を行い「どなたでも気軽にお越し下さい。相談会も行います。」と回覧板でお便りを回したり地域訪問をしました。今後も引き続き活動を続けていきたいと思っています。	●今後も地域との交流を深め、入居者様が住民として活動できるよう支援する。又、事業所として地域に貢献できるよう図る。	①“ケアホームバザー”を行い、相談会も併せて実施する。 ②地域の方と協力しながら地域訪問活動を行い、地域の実情を知る。 ③自治会に参加し一翼を担う。	継続 ヶ月
2	49	入居者様は外出が大好きで、ご家族・ボランティア・地域の方の協力もあり月に一度は外出を行い、又個別に外出を楽しんでいる方もおられます。しかし、入居者様のレベルの低下に伴い、外出に車椅子が必要になり、行事以外での日常的な外出が、以前より少なくなっています。	●入居者様の希望に添い、行きたい所に行き、外へ出る機会が増える。	①毎月の行事は、入居者様の希望・ご意見を聞き企画する。 ②お誕生日は、ご希望があれば個別に外出の企画を行う。 ③散歩担当の日勤体制を組む。	2月よりヶ月
3	52	消防訓練の際は、地域・運営推進会議のメンバーの方が参加して下さいたくさんのアドバイスを頂いています。2階からの脱出において「非常階段にスロープをつけた方が良い」とのご意見を頂き、23年度に改築が予定されています。(運営推進会議の中で、さらにどういふスロープにしたら良いか拝聴していきたいと考えています)	●非常時の際に、スムーズに避難できる非常階段にする。	①改築にあたり、地域・運営推進会議のメンバーの方のお知恵もお借りし、より安全で効果のある方法を検討し改築していく。	12 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月